

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 東朽網 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「情報の扱い方に関する事項」の原因と結果等の情報と情報との関係の理解度をみる問題、「読む」領域の文章を読み取り自分の考えをまとめる問題の正答率はは全国平均を上回っている。「言葉の特徴や使い方に関する事項」の漢字を正しく使うこと、「書く」領域の自分の考えが伝わる書き表し方の工夫をみる問題に課題がみられた。
	よくできた問題	・「情報の扱い方」に関する事項：原因と結果など情報と情報の関係について理解しているかどうかをみる問題 ・「読む」領域：文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題
	努力が必要な問題	・「読む」領域：目的に応じて必要な情報（語や文）等を見付けて要約したり、図表と結びつけたりする問題 ・「話す聞く」領域：必要なことを質問し、話し手の伝えたいことや自分の聞きたいことを中心を捉える問題

算数	全体的な傾向や特徴など	「数と計算」領域の分配法則を使った四則計算、図形の意味や性質の理解を見る問題、「変化と関係」領域の伴って変わる二つの数量の特徴から知りたい数量を求める問題や百分率で表された割合の問題、「データの活用」領域の二次元表から条件に合う数を読み取る問題や複数のグラフを比較し違いを書く問題で課題が見られた。
	よくできた問題	・「変化と関係」領域：伴って変わる二つの数量の関係が比例でないことを説明するための表の活用 ・「数と計算」領域：乗法の計算
	努力が必要な問題	・「数と計算」領域：分配法則を使った四則計算 ・「図形」領域：図形の意味や性質の理解をみる問題 ・「変化と関係」領域：百分率で表された割合の問題 ・「データの活用」領域：二次元表やグラフの読み取り

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
・「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」と「将来の夢や目標を持っていますか」の問いに対して肯定的な回答をした児童の割合は100%と86%であり、全国平均を上回っている。また、「自分にはよいところがありますか」の肯定的な回答は80%で全国平均と同等であった。全学年が、帰りの会等の時間を活用して定期的に、児童のよいところを伝える取組を行っていることがよい影響を及ぼしていると考えられる。 ・生活習慣の項目では、決まった時刻に起床し、毎日朝食を食べる児童の割合は95%を超えており、全国平均を上回っている。本校は集団登校を実施しており集合時刻が決まっているため、規則正しい朝の生活ができていると考えられる。「毎日同じくらいの時刻に寝ていますか」の問いに対して肯定的な回答をした児童は76%で全国平均より下回っていた。 ・「算数の勉強が好きですか」「算数の勉強は大切だと思いますか」「算数で学習したことは、社会に出たときに役に立つと思いますか」の問いに対して肯定的な回答の割合は、全国平均を下回っていた。今後は、授業時間の他にも、週3回のチャレンジタイムの時間を効果的に使って、学力の定着を図りつつ、算数の学習の面白さや大切さに児童が気付けるように日常生活との関連をもたせながら、学習に取り組んでいく。 ・「家で自分で計画を立てて勉強していますか。」の問いに対して肯定的な回答をした児童の割合が低かったので、家庭で学習する時間を決める等、計画的に学習ができるように啓発していく。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

国語科では、家庭学習の時間に、漢字ドリルを活用して繰り返し漢字を練習する時間を取り入れる。また、授業の話し合い活動を行う中で、自分の考えと相手の考えを比較検討し、自分の考えをより深める。算数科では、チャレンジタイム（補充学習の時間）や家庭学習で、分配法則、割合、図形の意味や性質の理解、表やグラフを読み取る問題に計画的に取り組む。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・規則的で健康的な毎日を過ごせるように、学校通信や学年通信、保健だよりで、スマートフォン等の使用時間や十分な睡眠時間の確保などと呼びかける。 ・学習する時間や順番を決めるなどの計画を立てて、家庭学習に取り組めるようにする。
--